

日本財団助成事業 完了報告書

事業完了日：2024年3月31日

事業名：

大阪府交野市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営（1年目）

団体名：一般社団法人 根っこわーくす

代表者名：代表者 大島 一

■事業内容（実績）

(1)期間: 2023年11月1日～2024年3月31日(週3日/月水金:15時～19時開所)

(2)場所: 大阪府交野市

(3)対象: 20名目標（家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年）

(4)内容: 子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。運営に必要な備品を整備し、居場所の環境を整えた。

● 成功したことと、失敗したこととその要因

11/1から大阪府交野市にて「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営をスタートできた。開所前から、放課後の子どもの活動をスタートさせていたため、開所後、スムーズなスタートが切れた。

9/1からの開所を目指していたが、施設整備工事の遅れから開設工事が遅れ、計画より2ヶ月遅れの開設となった。また、計画時には、水曜日は20時までの開所を計画していたが、スタッフ配置や人件費配分などの課題があり、水曜日も19時までの開設運営とした。

● 事業内容詳細

2023年11月1日～2024年3月31日の間に、週3日（月水金）15時～19時の開所を基本に、放課後の活動を中心に「子ども第三の居場所」運営した。

また、毎週火曜日（週1）には、幼児を含む親子のための居場所として、月水金の日中は、学校へ行っていない子どもたちの居場所としての開所も行った。

●2023年度 事業目標（1～3）の達成状況

【目標1】2024年3月31日までに一日平均利用児童数を15名にする

開設後、全体を平均すると10名程度の利用者数となった。詳細を分析すると、水曜日(食堂体験を実施)では、毎回15名を超えているが、特別活動を実施しない月金は「自分で過ごし方を決める」安心して過ごす居場所としての開設しており15名に満たない状況になっている。まだ、イベント的な活動には集まっているので、日常生活の中での学びや支援の活動でも利用者を増やしていきたい。2ヶ月遅れの11/1からの開所となり、に十分に認知されていないことが考えられるので、広報等に努めて徐々に増やしていきたい。

【目標2】ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供

子どもたちが自分たちで考えて作って食べる「いどこ食堂」のサポートボランティアを中心に、保護者や学生のボランティア協力を得ることができた。

関係団体との連携の面では、「行政への相談者」をつないでいただくことで、「子ども第三の居場所」運営者として相談を聴くとともに、行政からの紹介も居場所が必要な子どもたちの参加につながっている。

学校とは、11月から放課後の学校からの送迎がスタートした。スタートにあたり行政とともに学校の理解を得る調整を行ったことで送迎が実現している。また、乳幼児の親子を対象とした居場所づくりや、地域の方との餅つき大会や、保護者意見交換会を催すなど、多世代交流もスタートさせている。

【目標3】子どもの「経験の不足」を解消するために、子どもがつくる子ども食堂を事業期間内に定期的に実施する

子ども食堂は、予定通り毎週水曜に開催した。子ども自らが、寄付の食材などを生かして料理をし、食を共にする経験を通して、異年齢で教えあつてのサポートや、自分で作って食べる異年齢間交流、自ら創意工夫のもと料理をするなど、経験の幅を広げている。

●今後、事業実施によって得たい成果

3年の助成事業の完了後「2026年4月頃には、多くの子どもたち（20名目標）が訪れる施設になっている」ことを目指す。

ここへ来れば、子どもたちが安心して学び・過ごせる『イキイキのびのびしなやかに』自ら育っていける文化が定着」しており、地域の大人にとっても「ここへ来れば多世代が交流できて、安心し、イキイキと過ごせる場所になっている」。地域の方々や行政・関連機関に、存在意義が認知され「心配な様子の子ども」が紹介され、相談や居場所を求めて「子どもの教育」「不登校」「子育て」に悩む保護者の方や子どもたちが、相談に訪れる」そんな地域に根差した、コミュニティ拠点になることを目指す。"

●活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

子ども第三の居場所がスタートして、さまざまな方と話す中で、開所前に想像していた以上に、「両親共働き」家庭での「子どもを十分に見れていない」「ひとから愛情を受ける経験がもてていない」など、保護者自身の罪悪を伴う問題意識や悩みがあることがわかってきた。

このことから、今後共働きの家庭も意識したサポートを進め、サポートにつながる情報発信をすることで、日中孤立しがちな子どもたちが、第三の居場所を活用し、安心して過ごせる場を提供し、子ども時代の経験を豊にする活動を広げていきたい。取り組みを通して、保護者自身の心のゆとりも生み、家庭での子どもとの関わりも豊にしていく助けになればと考えている。